



令和7年度須賀川市第1回授業づくり研修会を実施しました
～講師に佐藤学先生（東京大学名誉教授）を招聘～

9月9日（火）に第1回須賀川市授業づくり研修会を須賀川市立第二中学校を会場に実施しました。今回の授業は、3年生の保健体育科で佐藤拓教諭（T1）と栗原航佑教諭（T2）がバレーボールの授業を行いました。生徒たちは、先日行われた世界バレーボール選手権大会の映像を参考にしながら、ブロックの練習をしたり、ブロックを外すための攻撃の工夫をしたりしながら練習していました。班で攻撃の仕方を話し合ったり、ブロックのタイミングを練習したり、主体的に取り組む生徒の様子が見られ、とてもすばらしい授業でした。授業を提供していただいた先生方に感謝したいと思います。また会場の準備や後片付けをしていただいた須賀川二中の先生や当日出席していただいた先生方にも感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



佐藤学先生の講話から～「探究と協同の学びのイノベーションー学びの共同体の挑戦」

授業づくり研修会には、各学校の研修主任と中学校の体育科教員が各1名ずつ参加し、須賀川二中の先生方を含め、70名以上の先生方が参加されました。事後研究会後、東京大学名誉教授の佐藤学先生からご講話をいただきました。以下は講話の要約です。

今日の午後は体育の授業を参観しました。体育の授業は、子どもの学びやかかわり、成果、つまづきが直接的に見える教科です。よく運動神経がよい、悪いということが言われますが、運動神経が悪い子はいません。体育には技のポイントがあります。ぜひ、その研究を進めてほしい。体育の先生は、それぞれ専門の種目がありますが、その専門に偏らず、体育全般に関する基本的なことを学んでほしい。今回の授業は、バレーボール競技でした。バレーボールは難しい球技です。今日の授業では、アタックやブロックなどの難しい課題に挑戦しているのがとてもよかったです。バレーボールは、ボールへの対応とスペースに関する対応を組織的に取り組む競技です。パスなどの基本的な練習を通して、型を学んでほしい。体育の専門で岡野昇先生という有名な先生が三重大学にいます。書籍などを通して指導の参考にしてください。

ところで、午前中授業を見せてもらいました。明るく、楽しそうな様子で、つぶやきも増えてきています。深く考えるとき、子どもはつぶやきます。反対に話し合いが活発というのは、あまりよくありません。つぶやきが大事です。コミュニケーションとしての言語を外言といい、思考のための言語を内言と言います。つぶやきはその中間にあり、自分と対話しながらも周りにも伝えることができます。学び合いの中で一番いい関係です。「いい授業」とは、つぶやきがあり、笑顔があること。そういう教室が広がってほしいと思います。

また学ぶ価値があることに夢中になることが大事です。どんな課題にも夢中になって取り組むということはあまりいいことではありません。価値があることを選ぶセンスが必要です。これから高校や大学に進学すると思うが、まじめになんでも取り組むのではなく、価値があることに取り組ませたいと考えています。

（裏面へ）



これからの学びに必要なことは、学びの意味を判断できること、本物と偽物を見分けること、協同的に学ぶことです。特に一人で学ぶのではなく、協同で学ぶことが大事です。ということが子どもにとっていい学びになるのか、どのように授業をつくるのが教師にとってよいものになるのか、しっかり考えてほしい。この学校は友達を大切に、つながりがあり、楽しいそうです。さらに繊細で丁寧。この細やかさと丁寧さが学ぶ人間にとって、とても重要になります。よく学ぶ子どもは小さな違いに気づきます。そこから学びが生まれます。研究者も同じです。いい仕事をする人は繊細です。雑な人はだめです。小さな違いに敏感になること。そこから物事を考えることが重要なのです。そこに先生がからみあっていけるといいです。

学級は個人主義になってはいけません。困っている人がいても平気になってしまいます。そうなるにつなかりも弱くなってしまいます。また、「学びの偽装」ということがあります。学んでふりをすることです。先生が板書すると一斉に子供たちがノートに写し始めます。子ども達は何も考えていません。これは気を付けなければなりません。昔は、学びから逃走していました。授業中に寝ていたり、教室を出て行ったりしました。今は、あまりそういう学校はありませんが、今の子ども達は学んだふりをします。これを「学びの偽装」と言います。子どもが一見まじめそうにやっていると教師はよしと思ってしまいます。でも何も学んでいません。これをどうやって克服するか、ワークシートを使うといいかもしれません。板書はあまり必要ないのではないのでしょうか。援助要請、つまり「助けて」と言える子どもを育ててほしいと思っています。

「主体的・対話的で深い学び」という言葉はわかりにくいです。つまり「探究と協同」のことです。「思考」は一人でもできますが、「探究」は対話と思考で新しいアイデアを生むことです。だから必ずグループワークを行います。だから4人グループになっています。昔は教師が子どもに理解させるために授業をやっていましたが、今は探究するために授業を行います。これからの生きる力は理解する力ではなく、探究する力です。探究する力を伸ばしてください。

◇ 適応指導「すこやか教室」の様子から ◇

8月25日(月)、第2学期の始業式が行われました。始業式では児童生徒一人ひとりが自分の目標を発表することができました。

さて、2学期になると、すこやか教室に通級する子どもが増えてきます。1学期は、なんとかがんばって登校しても、2学期になり、学校に行けなくなってしまう子どもがいます。



学校に行けなくなってもそのままにせず、すこやか教室につないでほしいと思っています。

すこやか教室では、自主学習が基本となりますが、理科の先生が来て、理科の授業を行ったり、ALTが英語の授業を行ったりしています。先日の理科の授業は、顕微鏡の勉強をしていました。また、毎週金曜日は、アリーナや中央体育館でバドミントンなど、スポーツ教室を行っています。

不登校についてお困りの方は、遠慮なくご相談ください。

9・10月の主な研修予定

- | | | |
|-----------|-----|----------------------|
| 9月16日(火) | [県] | 小学校初任者研修二次研修 |
| 17日(水) | [県] | 新採用養護教諭研修～18日 |
| 22日(月) | [県] | 小学校初任者研修二次研修 |
| 25日(木) | [県] | 中学校中堅教諭等研修 |
| 30日(火) | [県] | 小・中初任者地区別研修 |
| | [県] | 新採用養護教諭地区別研修 |
| | [市] | 特別支援教育研修会 |
| 10月 3日(金) | [県] | 中学校5年経験者研修 |
| 6日(月) | [県] | 小学校中堅教諭等研修 |
| 8日(水) | [県] | 市町村立学校中堅教諭研修
～10日 |
| 10日(金) | [県] | 新採用養護教諭研修 |
| 15日(水) | [県] | 中学校5年経験者研修 |

◇第2回授業づくり研修会は2月20日(金)です。

教師のための読書案内

「読めば分かるは当たり前?～読解力の認知心理学～」

(犬塚 美輪 著) 筑摩書房社

「日本人なんだから、日本語が読めるのは当たり前だ」と言われます。でも、「教科書を読んでも、何を言っているか、全然わからない」という子どももいます。「文章を読んで分からないのは読解力がないから」とよく言うが、本当にそうなのでしょう。人は、多くのプロセスを通して文章を読んでいます。認知心理学の観点から、読解の複雑なプロセスを解明し、どうすればよりよく読むことができるかを考えています。